



すごいぞ！
香川県！

知られざる「キウイ大国」

日本一面積が小さい香川県。土地が少ないことは農業にとって不利な条件ですが、キウイの果樹面積は58haと*全国7位を誇ります。また、世界最大級のキウイや世界最小のキウイを生み出すなど、オリジナル品種数は全国1位の先進地域です。

■キウイフルーツの歴史

まず、香川県でキウイ栽培が盛んになったのは、昭和40年後半頃。昭和45年に開催された大阪万博のニュージーランド館に陳列されたことで、日本でもキウイの認知度が一気に広がったといわれています。香川県は、もともとミカンなどの柑橘系の果樹農家が多い地域でしたが、輸入物や過剰生産の影響でミカンの価格が暴落。ミカンの転換作物として、高収益が見込まれる果実のキウイが注目され、徐々に耕作面積も増加していきました。

■なぜ普通寺市でキウイ栽培が盛んに？

普通寺市でも、吉原地区を中心に多くのミカン農家が存在してい

ました。

キウイ栽培は、ミカンと同様に日当たりと水はけが良く、風当たりが強い傾斜地が適しています。ただ、ミカンとキウイの大きな違いは、多くの水が必要になること。普通寺市は昔から水資源が豊富で、畑の水道整備もいち早く進んだこともあり、キウイ栽培が広がりやすくなりました。また、気候や風土水に加え、栽培が盛んになった当時、キウイの育種開発に携わっていた試験場に優秀な技術者がいたことも、現在、普通寺市が県内有数のキウイの産地になっている要因となっています。

■育種開発で世界をリード

香川県は、キウイフルーツの育種に積極的に取り組み、香川県オリ



さぬきエメラルド

画像提供：
香川県農業試験場

ジナル品種としてブランド化を進めています。昭和62年に初めて品種登録された「香緑」から、世界最大級の大きさの「さぬきゴールド」、一口サイズで世界最小の「さぬきキウイっこ」など、現在12品種がオリジナル品種として登録されています。これは、全国1位のキウイのブランド数を誇ります。また、県内のオリジナル品種を中心とした果物で、糖度などの一定基準を満たしたものを「さぬき讚フルーツ」として認定しており、キウイもその一つとして、全国から認知されています。

生産者をサポートする立場として

香川県農業試験場では、変わりゆく消費者ニーズに対応するため、昭和50年代から全国に先駆けてキウイの新品種育成に力を入れています。

今、出願公表中の新品種「さぬきエメラルド」は、新梢がしなやかに折れしにくく、春の強風被害が少ない上、果実に袋かけしなくても栽培可能。手作業が多いキウイ農家さんにとってもメリットが多い品種となる予定です。また生産者にとって、「地球温暖化」は生産量に直結する大きな問題です。急激な温度変化や異常気象にも対応でき、生産者の方が安心して農業できるよう技術開発に努めていきます。



香川県農業試験場 府中果樹研究所
かわきた けんしょう
川北 兼獎さん

*出典：農林水産省令和3年産キウイフルーツの結果樹面積、収穫量及び出荷量

キウイに恋した人①

しまだ みつおき
島田 満沖さん(吉原町)

キウイに全人生を捧げる

「普通寺のキウイといえば、島田さん。」

市内では、誰もが口を揃えて話すほど知名度が高い島田満沖さん。普通寺市のキウイ栽培第一人者として、今でも365日中、330日はキウイ畑に向かい、苗木や果実を確認する仕事ぶりです。

果樹農家(ピワ農家)の3代目として生まれ、今では、キウイ栽培一筋40年の大ベテランですが、農家になる前は、清涼飲料水メーカーで勤め、四国で営業成績2位になるほどの営業力の持ち主でした。農家に転身した当初は、「ピワ」や「フェイジョア」などの栽培も行っていましたが、ミカンと同じように価格暴落や不作の年が続き、生産物に悩んでいたところ、当時はまだ品種名もなかった「香緑」と出会い、キウイ栽培一筋に邁進。独自の栽培方法と管理基準を作り、さらに高品質のキウイを生み出し続けています。



平成元年、今でも島田さんの代名詞となっている「1個1,000円のキウイ」として、高品質のキウイ販売が話題となり、大手百貨店や銀座千疋屋との取引を開始。現在は、国内だけでなく世界にも販路を拡大し、グローバルで売れる高品質なキウイを日々研究しています。「果物は嗜好品、うまいが絶対条件」と語る島田さん。最後に次世代へ伝えたい想いも伺いました。



「若人よ、農業はおもしろい。
海外へ行って研鑽してきなさい。」

キウイに恋した人②

てんくも かずひさ
天雲 一壽さん(吉原町)

発展と認知の拡大を願う

天雲一壽さんは、曾祖父から続く果樹農家の4代目として、キウイ栽培を行っています。今では、生産者31人が所属するJA普通寺地区キウイ部会長を務めています。

天雲さん曰く、キウイづくりは、1月の剪定作業から11月上旬まで続く収穫作業で、特に4月から7月にかけて行う摘果、開花後の受粉作業、果実の袋かけの時期が大変忙しくなるそうです。

忙しい作業が終わり、収穫できる今の時期。「大きくきれいな果実ができたらうれしく、また頑張ろうと感じる。気持ちを込めて、丁寧に栽培する姿勢を若い世代に伝えながら、消費者への広報活動も行い、香川県普通寺市のキウイフルーツを発展させていきたいです。」と力強く話してくれました。



「丹精込めて、一つひとつ丁寧に」